

よしまい

2019年3月24日



目次

・公園の風景

- じっと時をまちましよう・・・・・・・・・・ 1
- ノウサギが ダッ〜〜ト・・・・・・・・・・ 1
- 子どもレンジャーが行く⑥・・・・・・・・ 1
- 公園の植物（ハマダイコン）・・・・・・・・ 1

・公園をみる・観る

- クロツラヘラサギを訪ねて・・・・・・・・ 2
- Kさんの、あんなとりこんなとり・・・・ 2

・活動紹介

- 春を告げる公園恒例行事、ヨシ焼き・・・ 3
- 花を待つ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 募る！公園ボランティア・・・・・・・・・・ 3

発行：「葦の会」

編集：機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 509-53

山口県立きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030

FAX 0836-66-2031

～ 一緒にしませんか ～

会員募集中！（高校生以上）

公園の風景

= じっと時をまちましょう =

昨秋完成した全国初のクロツラヘラサギ保護施設は「日本クロツラヘラサギ保護・リハビリセンター」と正式に命名され本格的に機能し始めました。クロツラヘラサギ（以下クロツラ）は東アジアのみに生育する絶滅危惧種。怪我や病気で衰弱していくクロツラは是非とも当センターで助けたいものと公園は意気込んでいます。

最近傷を負ったクロツラが沖縄で発見されましたが、現地の動物園が飼育展示をしたいということで当センターでの受け入れとはなりません。しかし他県では救護されたクロツラの受け入れ困難な所も多々あるので、この公園に専用のリハビリ施設ができたことは大きな意味があります。そして、当センターで過ごす傷病クロツラが、朝鮮半島から飛来するクロツラを呼び込み繁殖を始めれば、山口湾が日本初のクロツラヘラサギの繁殖地となり、従来山口湾に生息するカブトガニやトビハゼなども含めて、ラムサール条約の登録湿地となるかもしれません。それはつまり、山口湾の環境が半永久的に守られるという夢のあるお話なのです。その時をじっと待ちましょう。



= ノウサギ が ダッ〜ト =



春の陽気に誘われたか公園でノウサギに遭遇した。西側園路の樹林帯から汽水池の岸辺の木立に駆け込んでいった。「脱兎」という言葉があるが、まさに絵に書いたようなダットの走りであった。公園にはタヌキやキツネもいるが、タヌキやキツネは夜行性動物なので昼間はめったにお目にかかれない。ノウサギとなら出会えるかも……。

= 子どもレンジャーが行く⑥ =

3月17日(日)、18年度最後の子どもレンジャークラブがあった。この日も定刻に集まった子どもたち、昨年の春から一緒に公園の自然に親しみ、驚き、納得してきた仲間たちだ。

前回の復習(2月17日・カモをしらべる)のあと、今月のミッションは「一年間のまとめ」。毎月の観察記録の見直しと「手作り図鑑」を作った。その後1年間の振り返りをDVDで行い園内を観察しながら歩く自分たちの姿を見て笑い声を上げた。最後に修了式が行われ、12回のクラブに皆勤した東岐波小学校3年生の河内和空君に子どもレンジャー認定証と記念の缶バッチが贈られた。河内君は「干潟でのカニの観察が面白かった」と話した。子どもレンジャークラブは、来年度も4月21日「春の小鳥をしらべよう」を第一回に、毎月第三日曜日に(年間12回)開かれる。

= 公園の植物 =

ハマダイコン (アブラナ科ダイコン属)

淡紫色の2cm程の四弁花が素朴な花を咲かせ始めています。花期は6月頃まで続きます。草丈30~70cm程の多年草で、北海道から九州の海岸近くの砂地に自生する雑草です。海岸に自生することからの命名ですが諸説あるようです。根は食用ダイコンとは比べ物にならぬほど細く短いながらトビキリの辛さであるようです。



公園をみる・観る

= クロツラヘラサギを訪ねて =



2月中旬、風の強い寒い日だった。生息数調査のためクロツラヘラサギの姿を求めて山口湾を一回りしたが、その日はなかなか彼らに出会えなかった。最後に波多瀬岩の岩陰に18羽くらいのクロツラヘラサギが団子状になって風をよけていた。その姿に自然に逆らわず生きる生き物たちの健気さを見た思いがした。

春めいた3月中旬、山口湾に注ぐ土路石川にクロツラヘラサギがいるとの情報を受け、早速、双眼鏡をぶらさげて公園東側の堤防に行ってみる。海水が引いて干潟が広々と現われ、堤防付近では砂の中に生息する小さな甲殻類たちの呼吸音が「ピチッ ピチッ」と盛んに聞こえる。双眼鏡で川面を舐めると観察展望棟付近にそれらしき白い姿が点々と見える。静かに距離を詰めると「おお、間違いないクロツラヘラサギだ」。背中を丸めるようにして、特徴の黒くて長いスプーン状の嘴を水中で盛んに振り回し、餌を捜している様子を肉眼でもばっちり観ることが出来た。昨秋、この地にやって来た彼らたちも間もなく繁殖地に帰る。帰国に備えエネルギーの備蓄に懸命なのだろう。暫く彼らの採餌の様子を眺めるうち、そうだ、久し振りに保護・リハビリセンターに常駐するクロツラヘラサギたちに会いに行ってみようと思いつく。

ウグイスの不機嫌な出迎えに恐縮したり、イヌコリヤナギの新芽の美しさに触れたりしながら「日本クロツラヘラサギ保護・リハビリセンター」といかめしい名前の建物を訪れる。センターの住人、2羽のクロツラヘラサギはやって来た昨秋に比べちょっと大きくなっていて、トキの仲間なので、おもに漁食性。1日約500gのワカサギを食べているらしい。「お元気ですか？遊びましょ」と声を掛けようとしてはたと困った。考えてみれば彼らに名前も無く、人にあまり触れることのない、しかも金網越しの対面。どうやってコミュニケーションをとればいいのか。

それでも40分あまり彼らの動きをじっと観察。2羽は私など眼中にない様子で、付かず離れず佇み羽繕いするばかり。たまに流れ着いた枯れ草を、ご自慢の(?)嘴で引っ張りあっている。今日のところは成鳥の冠羽が風になびく様や、幼鳥のどことなく幼げな仕草に満足して引き上げることにしよう。山口湾の潮風は結構冷たい。次はちょっと温かくなってから訪問しよう。(土×土)

Kさんの、あんなとりこんなとり

「翡翠(かわせみ)の礼儀正しさ」と題する、生物学者の福岡伸一さんのコラムが新聞に載っていました。求愛期、オスがメスにプレゼントする時、捕らえた魚をまず枝や地面にたたきつけて動きをとめると、それから魚をくわえなおし、尾を自分側、頭をメス側に向けて差し出すというのです。それはヒシヤトゲガメスの喉に引っかからないようにという配慮からだとか。

翡翠という字をヒスイとも読むように、「空飛ぶ宝石」と呼ばれるほど背中のコバルトブルーが美しいカワセミ。そればかりではなく一瞬で魚をとらえるハンターとしても優秀な鳥なのですが、オスがそんなジェントルマンなマナーを身につけているとは驚きですね。



活動紹介

= 春を告げる公園恒例行事、ヨシ焼き =



ヨシ焼きの跡地

3月2日（土）曇り空ながら57名の事前登録の参加者が集合。2台の消防車待機のもと、枯れたヨシに着火でスタートです。

燃え進む火を、ヨシ焼きの範囲外となっている岸に水をかけるヒシャク担当、飛び火した火を枝でたたいて類焼を防ぐ火消し担当の二人一組で注意深く見守ります。着火直後は火がなかなか広がらずスタッフも気をもみました。やがて刻々と変わる炎の演舞が見られ始め、春の公園恒例行事は終了しました。その後、参加者・スタッフで反省会を持ち、葦の会名物のぜんざいも振舞われて春招きの行事は完となりました。

= 花を待つ =

環境サポートチームは2・3月も作業にいそしみました。

2月、秋に淡紫色の小花が咲くことを期待して、ウラギクの綿毛種を汽水池の土手に蒔きました。

3月、ピオトープにはびこるクログアイ（カヤツリグサ科の湿地草本）の除去作業を行いました。早くも産み着けられたニホンアカガエルの卵を踏み潰さぬよう気遣いつつ長靴で池に入り、やがて夏が来て光の中、水面に浮かぶ美しいスイレンの咲く様子を心に描いてクログアイの根と格闘しました。この日は陽春だったとはいえピオトープの水は冷たく、それでも開花を心待ちにする楽しい活動でした。

= 募る！ 公園ボランティア =

公園ボランティアグループ「葦の会」は、4つのチームに分かれて活動しています。

- ・来園される方々への館内・園内の説明や公園レンジャーのサポートなどをする「一般対応チーム」
- ・紙芝居などの作成と上演や公園行事の工作教室などのサポートをする「ショートプログラムチーム」
- ・会報「よしきり」を隔月で発行している「機関紙チーム」
- ・園内の草刈りや伸びた木の枝を切るなど環境保全をする「環境サポートチーム」

みんなが「来られるときに来る」をスタンスに、トシを忘れ、元気に和気あいあいと楽しく活動していますが、会員の平均年齢は高めで、年々仲間が減っていくという不安材料に悩んでいます。

そこで皆さんにお誘いで～す。

自然や生き物が好きな人、鳥に興味があり好きな人、子どもたちとふれ合うのが好きな人、生涯学習として自然環境のことを学びたい人（若い人ももちろん）。

仲間と一緒にいろんな活動をしたい人、集まって～！

一緒に、気楽に楽しみましょうよ！！



～～表紙写真～～ 春、到来！ イヌコリヤナギの花が咲きました。

（編集後記）年度末の3月号。今年度の反省、来年度の方向性など悩みはつきませんが編集の合間をぬって公園内を巡るのはリフレッシュタイムともなります。読者の皆様、感想をお聞かせ下さい。